

2023年5月30日
一般社団法人Jミルク

牛乳の日・牛乳月間の取り組みについて

6月1日は「牛乳の日」、6月は「牛乳月間」です。

Jミルクは、2023年の牛乳の日・牛乳月間に、下記の取り組みを行う予定です。

今年も、全国の酪農乳業関係者やミルクファンらがSNSを通して互いに感謝の思いを伝え合い、絆を深めたり広げたりすることに重点を置き「ミルクのバトンリレー」を実施します。

また、牛乳・乳製品の価値を再認識してもらおうと、子どもの栄養バランスを良好に保つ上で牛乳や乳製品が果たしている役割や、日々の食事に取り入れてもらうための情報などについても啓発・PRにつながる情報発信を行っていきます。

国内外のさまざまな情勢変化を受け、酪農乳業界は過去にない困難な状況に直面していますが、牛乳・乳製品に関わるすべての人の思いがつながり、一つになることを目指します。



記

① ミルクでつながる「ありがとう」の輪 (#ミルクのバトンリレー)

酪農乳業や牛乳・乳製品に関する感謝の思いをSNSで伝え合う企画。酪農家や農協、乳業メーカー、牛乳販売店、ミルクファンなどが、「#ミルクのバトンリレー」を付けて写真や動画などを投稿し合います。(応募期間 2023年6月1日～6月30日＝抽選で賞品贈呈)

※詳細は3、4ページを参照

② 訪日外国人観光客に牛乳(ウェルカムミルク)プレゼント

農林水産省の畜産・酪農緊急対策パッケージによる牛乳乳製品のインバウンド等消費拡大緊急対策(独立行政法人農畜産業振興機構の支援)を受け、6月1日と2日に、成田国際空港で、訪日外国人観光客に牛乳をプレゼントします。

③ 家庭での飲用促進に向けた取り組み

学校が休みで給食のない日は、子どもたちがとる栄養が偏りがちで特にカルシウム不足が心配されることから、学校や地域などと連携し、週末や長期休暇に家庭での飲用習慣をつけてもらうための「土日ミルク」の取り組みを引き続き進めます。

<https://donichi-milk.jp/>

④ 「愛してミルク？」 ツール無償提供

「愛してミルク？」は牛乳の日・牛乳月間のキャッチフレーズ・ロゴマークです。ポスター、リーフレット、ロゴマーク、サウンドロゴなどや、イベントなどで使えるデータについて、酪農乳業関係者を中心に無償で提供します（在庫限り）。

⑤ 国際組織との連携

世界の酪農乳業関係組織で構成するグローバル・デーリー・プラットフォーム (GDP) は、持続可能性をテーマに6月1日の「世界牛乳の日 (World Milk Day)」を盛り上げます。Jミルクもこれと連携し、6月1日のSNS投稿には二つのハッシュタグ「#WorldMilkDay」「#EnjoyDairy」の追加を呼び掛け、世界牛乳の日を祝う世界中の酪農乳業関係者となつがることを目指します。

※上記の詳細は、Jミルクの牛乳の日・牛乳月間ページに掲載しています。

<https://www.j-milk.jp/milkday/index.html>

牛乳の日・牛乳月間とは

酪農の盛んな地域では、新しい草が伸びる頃から放牧を始め、冬を牛舎で過ごした牛たちは野に放たれ躍り上がって喜び、思う存分青草を食みます。生命力あふれるこの時期、ミルク、これをもたらす命や自然、働く人々に感謝するお祭りやお祝いが世界各地で行われます。このことから2001年に国連食糧農業機関 (FAO) が、牛乳の重要性を認識してもらうとともに酪農乳業への理解を広めようと、6月1日を「世界牛乳の日 (World Milk Day)」とすることを提唱しました。日本では日本酪農乳業協会 (現・Jミルク) が2007年に6月1日を「牛乳の日」、6月を「牛乳月間」と決めました。

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

一般社団法人 Jミルク
コミュニケーショングループ
牛乳の日・牛乳月間プロジェクトチーム
東京都千代田区神田駿河台 2-1-20 お茶の水ユニオンビル 5階
電話：03-5577-7494